

【論文題目】

ファッションにおける「文化の尊重」 — 民族衣装と「文化の盗用」をめぐる問題から—

ファッションビジネス学科 池田 実緒

【論文要旨】

昨今「文化の盗用」が問題となっているが、文化を流用することが問題となったのはここ最近の話ではないだろうか。ファッションは常に新しいものを目指して変化を遂げてきた。これまでに文化と文化の融合が幾度も行われ、ファッション史に新たな歴史が生まれている。しかし、今この文化をめぐる様々な問題がファッション業界で起きている。従来のように文化を流用するだけでは、文化を理解し尊重しているとは言えない時代になっているのだ。文化を「尊重」とはどのようなことなのだろうか。この尊重という曖昧な言葉をどのように追求していくべきか、考えていくことがファッション業界に求められている。

本論文の第1章では文化の盗用が問題となっている中で、この文化の盗用の「文化」と深く関わりのある衣服、すなわち「民族衣装」について考える。そこで「各国の民族衣装とはどのようなものなのか」という問いを提示し、第2章で中国の少数民族の衣装とインドのサリーを事例として、各国のある地域で着用されてきた服が「民族衣装」になる過程について述べる。この章では、民族衣装がどのような背景の上で作られてきたかを理解することで装いを形作る文化への理解を深めていく。

この第2章を踏まえて第3章では「文化の盗用」をめぐる問題を、「人種問題的」「宗教問題的」「知財搾取的」の三つに分類し事例をあげ説明する。事例から、文化を盗用されていると感じる側の歴史や思いに触れ、文化がどのような過程から融合ではなく盗用問題へと発展していくのか考える。

第4章ではその解決策として、「コラボレーション」と「自文化の再解釈」をキーワードに、グアテマラの事例と日本のファッションデザイナーである matohu による試みを紹介した上で、私の視点からこれらの解決策の良い点と問題点について論じる。これらを踏まえた上で文化を理解するために大切な「尊重」の在り方とは何かを追求していく。

【目次】

第1章 はじめに

第2章 民族衣装はどのように認識されるのか

2-1 中国における民族衣装とは

2-2 インドにおける民族衣装とは

2-3 民族衣装に隠された背景

第3章 文化の盗用問題 — 民族衣装や文化を踏まえての炎上事例 —

3-1 「人種的」な問題をめぐる炎上事例

3-2 「宗教的」な問題をめぐる炎上事例

3-3 日本の着物にみる「民族衣装」の文化的背景

3-4 「知財搾取的」な問題をめぐる炎上事例

第4章 文化の盗用の解決策に向けて

4-1 現地の人々との真の「コラボレーション」を目指す取り組み

4-2 自文化の再解釈— matohu が探求する「日本の眼」—

4-3 真の「尊重」の在り方

第5章 今後のファッション業界に求められる「尊重」とは

参考文献